(C)十勝毎日新聞社

立命館大が初戦突破

氷上インカレ アイスホッケー

第86回日本学生氷上競技選手権大会（日本学生氷上競技連盟、帯広市、帯広市教委主催）第1日は6日、帯広の森アイスアリーナ、明治北海道十勝オーバル、帯広の森スポーツセンターの3会場で競技を行った。アイスホッケーの1回戦は、開幕戦で十勝関係選手7人が所属する立命館大が、橋本圭介（4年・清水高出）と早坂綾祐（1年・江陵高出）が所属する八戸学院大を5―3で下したほか、慶大が福岡大に16―0で圧勝した。スピードスケートは男女の500㍍を行い、午前の男子1部1回目は長谷川翼（日大2年―白樺学園高出）が35秒82の大会新で首位に立ち、女子1回目は永田希絵（高崎健大1年―帯南商高出）が2位。フィギュアは男女Cクラスのフリースケーティングなどを行った。

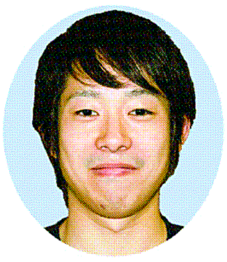
（宮木宗久、小寺泰介）

スケート男子500 長谷川（日大―白樺出）首位

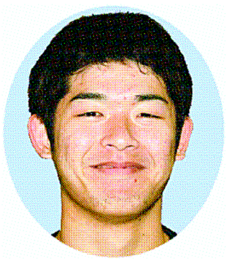
【男子1部500㍍1回目】35秒82の大会新記録をマークしてトップに立った長谷川翼（日大―白樺学園高出）

最終ピリオドに4点奪い逆転

○…関西学生リーグ準優勝の立命館大は、第1ピリオド（P）に2点を先行されるなど八戸学院大にリードを許したが、最終ピリオドに4点を奪って逆転勝利を飾った。



佐々木堂晃



上本晃巧

昨年12月26日から今月4日まで、清水町アイスアリーナで合宿を行ってきたが、「清水高などとの練習試合で、課題となっていた立ち上がりの悪さが出た」と池田拓コーチ。

この日も同様の展開となったものの、本来の速い展開での攻撃ができるようになってきた第3Pは、副将のFW佐々木堂晃（4年・江陵高出）やDF水上瑞樹（3年・清水高出）らを中心に攻め込んだ。逆転弾となる4点目をアシストしたDF上本晃巧（1年・清水高出）は「自分にできることを意識したが、ラッキーでした」と笑顔。

2回戦ではインカレ3連覇を狙う中央大と戦う。佐々木は「地元でのインカレはなかなか経験できないこと。チャレンジャーとして精いっぱいやりたい」と全力を尽くすつもりだ。

【1回戦・立命館大―八戸学院大】第3ピリオド3分、逆転を狙い攻め上がる立命館大の水上瑞樹（中央、清水高出）。左は白樺学園高出の加藤夏輝、右は八戸学院大の橋本圭介（清水高出）

◇1回戦

立命館大　5（0―2、1―1、4―0）3　八戸学院大

▽得点者【立】高見、良田、高橋、南、橋【八】杉浦、吉田、及川

▽アシスト【立】佐々木、高橋、橋、良田、上本【八】杉浦2、及川、田村、吉田

▽反則【立】6【八】5

▽シュート数【立】44（9、14、21）【八】16（11、3、2）

▽審判＝円子賀、金子、小野

慶　大　16（8―0、1―0、7―0）0　福岡大

▽得点者【慶】鈴木4、金村3、種田2、三田2、山本、東内、末松、田中、井上

▽アシスト【慶】金村5、鈴木3、江口3、東内2、三田、梅澤、白神、真鍋、小野塚、田中、加藤、小池、水澤、石毛、末松

▽反則【慶】4【福】2

▽シュート数【慶】94（38、20、36）【福】10（0、6、4）

▽審判＝キモ、石綿、木村恵

「五輪に負けない白熱した戦いを」

帯広で開会式

「ソチ五輪に負けない白熱した戦いを」と選手宣誓する岩槻翔悟（左）ら

第86回日本学生氷上競技選手権大会（日本学生氷上競技連盟、帯広市、帯広市教委主催）の開会式が5日、帯広市内のとかちプラザで開かれた。

同連盟総裁を務めた故三笠宮寛仁さまの次女・瑶子さまがご出席し、「悔いの残らない試合をしてほしい」と激励した。

小野島真大会長（同連盟会長）が「好記録が多く生まれ、観戦している人の記憶に残る素晴らしい大会に」とあいさつ。米沢則寿帯広市長は「トップレベルの競技ができることは市民の誇り」と歓迎の言葉を述べた。

選手宣誓では、清水町出身のアイスホッケー岩槻翔悟（法大4年―埼玉栄高出）らが登壇し、「ソチ五輪に負けない白熱した戦いを繰り広げることを誓う」と力強く決意を語った。

（小寺泰介）